

<別紙1>

## 第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

②施設・事業所情報

名称：えみ保育園	種別：保育所	
代表者氏名：清水 ゆう希	定員（利用人数）： 90名	
所在地：横浜市鶴見区獅子ヶ谷3-4-32		
TEL：045-570-3090	ホームページ：http://www.kakuseikai.or.jp	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2013年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人横浜鶴声会		
職員数	常勤職員： 22名 非常勤職員 5名	
専門職員	（専門職の名称）	
	保育士 25名	
	教員 1名	
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	保育室6	

③理念・基本方針

<園目標>

- ☆こころも体も元気な子
- ☆自分も友だちも大切にできる子
- ☆自分で考え、いきいきと活動できる子

<保育理念>

- ・私たちは、一人ひとりの子どもの最善の利益を第一に考え、保育を通してその福祉を積極的に増進するよう努めます。
- ・私たちは、一人ひとりの子どもが健康、安全で情緒の安定した生活が出来る環境を整え、健全な心身の発達を図ります。
- ・私たちは、一人ひとりの子どもが人との関わりの中で、安心と信頼感をもち、ありのままの自分を受けられることで、自己肯定感を育てていきます。
- ・私たちは、地域のネットワークを作り、様々な社会資源を活用し、子育てを支援を行います。

④施設・事業所の特徴的な取組

- 各クラスの棚に、年齢に合ったブロックやアイロンビーズ、絵本、玩具などを置き、子どもたちが自由に選んで遊んでいる。子どもたちは全員、自由画帳とクレヨンを持っているので、お絵描きも好きな時に行っている。園庭には、砂場や滑り台、ボルダリングなどの遊具があり、また、第二園庭もあり、子どもたちは身体を使って自由に遊んでいる。近隣には自然豊かな公園や、市民の森などがある。四季折々の行事を充実し、1年間の子どもたちの様子を「写真ファイル」にまとめている。
- 食育に力を入れている。「食育だより」などで、栄養士が季節にあった食の大切さや、子どもの食事の様子などを、保護者に知らせている。子どもたちには、電車のイラスト

トを使い、赤い食べ物、黄色の食べ物、緑の食べ物の話を、クイズ形式で出して指導している。園庭の畑だけでなく、広い畑が近くにあり、大根やスナップエンドウ、トマト、キュウリ、サツマイモ、人参、オクラなど、沢山の苗を子どもたちが植え付け、育てている。子どもたちが収穫物を給食室に届け、給食に出してもらおうようお願いして、調理してもらっている。行事食や郷土料理、外国の料理も、献立に組み入れている。

#### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2020年11月1日（契約日）～ 2021年2月16日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2015年度）

#### ⑥総評

- ◇事業所の特色や努力、工夫していること、事業所が課題と考えていること等
- えみ保育園は、定員90名の園で、1階に3～5歳の幼児クラス、2階に0～2歳の乳児クラスの保育室がある。幼児クラスの保育室はパーテーションを外すと、広いスペースが確保でき、保護者参加の大きな行事に使用している。園は自然に恵まれ、園庭や近くに畑があり、子どもたちがさまざまな野菜を育てて収穫している。また、道を隔てて第二園庭があり、子どもたちがのびのびと身体を動かして、活動している。
  - 保育室は日当たりも良く、明るい雰囲気がある。窓に遮熱シートを張っている。室内の温度や湿度は、エアコンや空気清浄機を使用して、子どもの状態に合わせて調整している。また、子どもの成長に合わせた机や椅子を使用している。園庭はボルダリングができるスペースがあり、思い切り身体を使って遊ぶことができるよう、遊具を設置している。園は自然に恵まれ、公園や市民の森などが近くにあり、四季の移り変わりや植物に触れることができる。
  - 全体的な計画には、保育方針や目標、各クラス目標、年齢ごとの養護と教育(5領域)、食育、保護者への支援、地域への支援などを記載している。子どもを優先した考えのもと、保育にかかわる職員が年度末に振り返りを行い、次年度に向けた全体的な計画を作成している。リズム遊びや体操教室など、周りの自然環境を通して体力作りに取り組んでいる。また、園の畑でさまざまな野菜作りを体験して、育てる楽しさや収穫の喜びを味わい、収穫した野菜を使っての給食や調理保育などを楽しんでいる。
  - 0歳児の保育では、現在、離乳食も終了し、幼児食に移行している。今まで、午前寝、午後寝をする子どもがいたが、今は午前はしっかり遊び、午睡ができるようになっていく。午睡の際は、SIDS（乳幼児突然死症候群）対策として、仰向きに寝て、5分置きの呼吸をチェックし、記録に残している。また、担任の保育士との愛着関係を重視し、十分に関わりを持つようにしている。
  - 1歳以上3歳未満児の保育では、子どもたち一人ひとりの育ちに目を向けている。自分で手洗いができた、洋服を着ることができた時などは、「綺麗になったね」、「上手に着られたね」など声をかけ、子どもたちの意欲を伸ばすよう関わっている。合同保育を定期的に行い、散歩に行ったり、お店屋さんごっこをしたり、異年齢での遊びを通して、社会性や協調性を身につけている。保育士だけでなく、調理員や事務員など様々な人と挨拶したり、話をしたりして、人との関わりが持てるよう取り組んでいる。
  - 3歳以上児の保育では、日常生活習慣ができるようになり、子どもたちが自分で取り組むことを増やして、保育士が見守る中で、様々な体験ができるようにしている。また、相手の気持ちが理解できるよう関わっている。「楽しい心」や「うれしい心」、「悲しい心」や「怒った心」などをテーマにして、集会時に職員が寸劇を行い、相手

の気持ちを理解できるよう保育している。また、イラストを使って、「貸して」、「いや!」、「いいよ」などの言葉のやり取りを行っている。

- 保護者には入園時に、「保育園のご案内」や「重要事項説明書」などにより、利用規程や園規程を説明している。必要に応じて配布物にルビを振り、わかりやすくしている。「健康管理マニュアル」や「感染症マニュアル」を整備し、また、保育のマニュアルの中に「朝の受け入れマニュアル」を備え、受け入れ時には、視診により、顔色や表情、全体状態、鼻水、機嫌などを確認している。コロナ禍での保育を考え毎朝、家庭で検温して、「検温チェック表」に保護者が記入している。
- 毎年、保育士自己評価を行い、課題や改善点を見出し、それぞれの保育や保育士としてのあり方を見直している。自己評価表は、市の自己反省シートを活用して、結果のまとめは、主任が独自のシートを作成して、園の玄関に掲示している。
- 年2回、保護者懇談会や保護者面談を行い、保護者の声や意見を聴く機会を設けている。また、保護者参加の大きな行事の後は、アンケートを実施し、すみやかに集計して、結果を保護者に返している。保護者からの声や意見は、内容を検討し、日頃の保育の内容に反映している。運動会のズーム配信や、担任の写真を「えんだより」に掲載したりしている。
- 記録類のデジタル化を進めている。コドモン～保育のICTシステム（指導案の作成、記録、登降園管理、シフト管理、保護者アプリなど）を活用して、記録類を管理する他、連絡事項や「えんだより」などを保護者に配信している。

#### ⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

開園して8年目、2回目の受審となりました。

全職員でグループ分けを行い自己評価したものをまとめました。

8年間の中で改善してきた部分と、開園当初から決めてきた保育を行ってきた部分がありましたが、第三者評価を受審し改めて初心に戻れました。

その中でも、法人との連携・職員間の連携・保育内容・保護者の皆さまの意見（良い部分・悪い部分）について職員間で話し合い、さらなる検討・改善があるように思いました。

また、ここ数年『安全マニュアル』や、書類等の見直しも一から行いましたが、今後は細かなところを煮詰めていく必要があると改めて感じました。

コロナ禍で、実際の保育を見て頂くことは出来ず、聞き取り調査のみになってしまったことが非常に残念でした。

改善できるところから改善していき、理解を求めるところは伝え方を十分に考えて、より良い保育園運営ができるように努めていきたいと思えます。

#### ⑧第三者評価結果

別紙2のとおり